
スピン・オフ小説 あんたはすごい！

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

【Nコード】

N3098X

【作者名】

水本爽涼

【あらすじ】

時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

第28回

その直後、早希ちゃんが息を切らせて店のドアから飛び込んできた。

「ふう〜。すみませえ〜ん。あつ！ 満君。もう来てんだ」

「来ていて悪かったな」

私は笑みを浮かべて拗ねてみせた。

「まあ。今日は絡むわねえ」

「ははは…、冗談冗談」

ママは私と早希ちゃんが話している間に店の奥へ入ったが、直ぐに戻ってきた。手には何やら持っている。

「はい！ これが電話で云ってたものなのよ」

ママがカウンターの^上へ置いたものとは、輝くガラス玉のようなものがたくさん入った小箱だった。見ようによっては、幼い頃によく遊んだビ 玉に見えないこともない。

「いったい何なんですか？ これ…」

「三日ほど前に沼澤さんがまた、いらして、置いてかれた水晶小玉」

「はあ、それで…」

私は合いの手を入れることも忘れなかった。

「来店されるお客様お一人お一人にね、一個ずつ差し上げてくれます。まあ、お守り代わりっていうか、幸福になれるっていう、なんかそうゆづの…」

「ははーん、こりゃよくある靈感商法だわ…と、私は咄嗟とっさに思った。早い話、押し売りではない思わせ売りとしても呼べそうな如何いかわしい商売に思えたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3098x/>

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

2011年12月18日00時49分発行